

福知山市自治基本条例推進委員会（第4回）報告

〔日 時〕 令和元年11月26日（火）10:00～12:00

〔場 所〕 ハピネスふくちやま 第2会議室

〔出席者〕 委員…8人、事務局…3人

■ 開会

■ 前回のふりかえり

- ・ 前回の委員会意見を受けて、3件の審議会等においては、次期改選以降の市民公募を実施していくことに担当課が方針を変更。

【審議会委員の公募実施（第22条）の適正判断にかかる確認】

- ・ 推進委員会での議論はいったん終わるが、毎年を検証も含め、今後も継続して市民公募について市の各担当課は検討を進めていく。
- ・ 今回の推進委員会の成果として年度末を目途に市民への周知を図る。

■ 議題「地域づくりと人材育成」

（1）テーマ選定の背景

- ・ 市民参画の門戸を広げても参加する人がいなければ変わらない。待っているだけでなく、どのように活躍してもらうのか、そのきっかけも含めて考えたい。
- ・ 自治基本条例の精神であるまちづくりへの市民参加を考えていく上で、どういった人材をどのように増やしていくのかを考えたい。

（2）地域づくりと若い世代の参画

「ともに活動する中でまちづくりの人材や意識は育つ」

- ・ 地域人材は地域とともに育つ。
- ・ 人間関係が希薄化する中で、地域活動をともにする（参加する）ことが第一。
- ・ 潜在的な地域の教育力を生かす。
- ・ 若いうちから活動（行事）に参加する中で自然と「何かしたい」という気持ちを育てていく。
- ・ 参加者が「楽しい」「嬉しい」と感じることを重ねる。
- ・ 活動に参画してもらうことが、リーダーになるべき存在を育てていくことになる。
- ・ 若者の活動の場を意図的に設ける。

「場合に応じて、若い世代に任せる」

- ・ 「こうしたい」ということを発信できる若者も増えている。
- ・ 旧役員が発言すると経験による安全性はあるが、先入観で枠をつくってしまうので、時には旧役員は発言せずに見守って、任せることも必要。
- ・ 人口構成からも高齢者にまちづくりを任せてしまっている部分があるが、若い人

たちにまちづくりのウエイトを置かなければならない。

- ・ みんなでまちを作っていくためにも、新しい意見を大切にすることが必要。
- ・ これからの自治を担っていく中心となる子育て世代に対する働きかけを考えなければならぬ。

(2) まちづくりに市民が参画するために

「参画、実践のためにまずは話し合い」

- ・ 本委員会のように議論自体に参加することも一つの行動として大切。
- ・ 議論に参加することから次の行動が生まれる。
- ・ 地域で活躍している人との交流から学ぶことも多い。
- ・ 地域の子どもと大人が話し合うことで、地域へのそれぞれの地域への思いを知り、地域に関わろうという考えが生まれる。
- ・ 議員報告会でも市民との意見交換に時間をさいて意見を交わしてほしい。
- ・ まちづくりのあらゆるテーマについて話し合うプラットフォームがあると良い。

(3) 市民参画を進めるための行政の役割

「協働の仕組みづくりに投資」

- ・ 行政は、サービスを直接提供する立場から、協働のためのしかけづくりにお金をまわすようにシフトしていくことを考えるべき。
- ・ 行政からの資本をもとに市民が動くことで効果的な活動が生まれる可能性がある。
- ・ 市の財政を協働型にしていく。協働の場を作ることに支出を。
- ・ 参画のきっかけとなる話し合いの場をまずは市が創出していく。
- ・ 尼崎市では、「学び」を大切にしておりコミュニティカレッジの取組により、「学ぶ」という文化を根付かせようとしている。

「市民の活動の指針となる情報公開」

- ・ 市民が参加する条件として、情報をオープンにしなければならない。
- ・ 市民に市の目標の設定や目的意識を明確に示すべき。
- ・ 市民参画においては、単に意見が言えるということではなく、方向性（全体像）が見えることが大切。
- ・ 行政からの情報公開により、自分の考えや行動が決まる。